



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：外山 学

事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内

Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055

E-mail jpca@a-youme.jp

HP primary-care.or.jp/primarycare-kinki/

ニュースレター No.23 (2018.6)

[勉強会報告] 第10回近畿家庭医療専攻医ポートフォリオ発表会 (2月25日)

三浦 弓佳 (尼崎医療生協 本田診療所/兵庫県尼崎市)

JEC 日本研修センター伊丹にて開催されました。第一部はカフェ企画と称し、家庭医療専攻医の交流と仲間づくりの場としました。第二部は各プログラムから27名の発表者を迎え、ショーケースポートフォリオの形式で発表を行いました。8分間の発表の後に、2分間の質疑応答の時間を設け、当日は活発な議論が行われました。評価委員によって、事前に提出してある詳細事例報告書及びショーケースポートフォリオを評価し、各専攻医師へとフィードバックしております。評価の点数に応じて、最優秀ポートフォリオ賞：徳田 嘉仁、大竹 要生、荒 隆紀、優秀ポートフォリオ賞：原 奈央、鷹津 英、成瀬 瞳、奨励賞：井本 博之、特別賞：三浦 弓佳、以上の方々を表彰させていただきました。



特別講演は、市立福知山市民病院総合内科 川島 篤志先生にご講演いただきました。地域医療を支える病院総合医としての気概をもって奮闘されているのが会場にいた専攻医にも伝わり、非常に実りの多い講演となりました。

近畿家庭医療専攻医ポートフォリオ発表会として10回目を迎える今回は、育児中の方も参加しやすいよう、託児所設置という新たな取り組みも行い、より多くの参加者を集めることとなりました。参加者のうち3名(託児利用の児は5名)が託児所を利用しました。総参加者は69名(評価委員9名、座長3名、講師1名、発表者24名、見学者32名)となりました。

近畿ブロック支部 (KPCA :Kinki Primary Care Association) について

近畿ブロック (滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県) に所属する学会会員で構成され、ブロック代議員会を最高議決機関としています。

ブロック支部会費は必要ありません。日常的な運営は幹事会が行っています。

- ・ 支部長 : 外山学
- ・ 副支部長 : 雨森正記、大島民旗、戸田和夫
- ・ 幹事 : 朝倉健太郎、鈴木富雄、福原俊一、
足立光平、石丸裕康、一瀬直日、岡山雅信、梶山泰男、木戸友幸、小泉俊三、関透、高木幸夫
武田以知郎、西尾健治、畑伸弘、羽野卓三、松井善典、三ツ浪健一、森村美奈、吉本清己
- ・ 監事 : 大島久明、水野融
- ・ 顧問 : 空地顕一、松村理司



[支部報告] 第9回兵庫県摂食嚥下障害研修会 (2月18日)

戸田 和夫 (戸田内科・リハビリテーション科/兵庫県明石市)

今回は、各専門職による実践的な取り組みをテーマとし「在宅摂食嚥下障害患者に対する実践的取り組み」を副題として開催しました。参加者は280名で、医師が60名、歯科医師が15名、看護師が55名、歯科衛生士が25名、理学療法士が17名、作業療法士が8名、言語聴覚士が60名、栄養士が22名、薬剤師が5名、ケアマネジャーが6名、介護士が5名、その他と



なっていました。

一席目は言語聴覚士による「訪問看護ステーションの言語聴覚士による摂食嚥下支援の実際」と題し、明石市の魚住訪問看護ステーションの言語聴覚士である萱沢成行氏に報告を頂きました。氏が担当するほとんどの在宅患者は普通食を食べているが、本来は嚥下食が相応しい現実の中で、嚥下食を作ることが難解であったり、時間を要するといった先入観などが障害となっている、とのことでした。

二席目は、神戸市の藤田耳鼻科医院の藤田彰医師による「耳鼻咽喉科で診る嚥下障害 ～リハビリから重症者診療まで～」で、内視鏡による嚥下状態のチェックの必要性を強調され、その上で実際に食べることが訓練にもつながることを訴えておられました。

三席目は赤穂市民病院の総合診療科の一瀬直日医師による「NST回診と摂食チームの融合 ～味付き粥の試み～」で、院内で多職種が検討して、嚥下障害患者さん個々に適した食形態やポジショニングを検討することが重要であると説明されました。講演の後にはシンポジウムも開催し、終了後は相互に意見交換も行えました。

[地方会予告] 第32回近畿地方会

「皆で織りなすプライマリ・ケア：Learn、Serve、Lead」

- ・会 期：2018年 **12月2日(日)**
- ・大会長：山脇 正永 (京都府立医科大学 総合医療・医学教育学)
- ・会 場：歴彩館・稲盛記念館 (京都府立大学) (地下鉄烏丸線北山駅から徒歩5分)
- ・主 催：京都府立医科大学、
京都北医師会、
上京東部医師会、
京都市西陣医師会

- ・演題募集：7月 **12日(木)**まで
- ・事前登録
[早期]：7月 **31日(火)**17時まで
[通常]：10月 **11日(木)**17時まで

- ・寄付も受け付けております

<http://pc32kinki.umin.jp/>



【ご挨拶】 理事就任

雨森 正記 (弓削メディカルクリニック・滋賀家庭医療学センター)

この度、学会理事に再度選出して頂き誠にありがたく思っております。来年5月17日から19日に第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会が京都国際会館にて開催され、私が大会長を拝命しております。日本プライマリ・ケア連合学会の学術大会も10回目を迎えました。この10年でわが国のプライマリ・ケアを取り巻く状況は大きく変化してきたのは間違いがありません。第10回学術大会は、この大きな変動をともに歩んできた皆様とこの10年を振り返り、今後に更なる発展を続けることを期待して「これまでの10年、これからの100年」という壮大なテーマにて開催いたします。また今回はWONCA APRと合同で開催することになりました。わが国で開催されるのも15年ぶりとなります。国際学会と合同になることで例年以上に国際的な企画が多く予定されています。



10年間で初めて近畿地方で開催される学術大会であり、近畿ブロックの皆様のご協力とご参加を頂かなくては、成功はないものと思っております。なにとぞよろしくお願い致します。

【ご挨拶】 理事就任

鈴木 富雄 (大阪医大 地域総合医療科学寄附講座)



総合診療医育成の鍵は、プログラムの質もさることながら、どれだけの若い医師達が、この領域に魅力を感じ、夢を抱いて飛び込んでくれるかにかかっています。彼らのキャリア形成に大きな影響を与える大学総合診療部門の意義と責任は極めて重大であり、一般病院・診療所の先生方や多職種の方々と柔軟で強力なネットワークを創り、卒前教育から生涯教育に至るまで、多彩で豊かな経験と学びが得られる場を、継続的に提供していく必要性を強く感じています。

私は前職である名古屋大学総合診療科のときから、大学での業務のみならず、全国各地での講演や症例カンファを通じ、総合診療や地域医療に関する診療と教育の重要性を一貫して伝えてまいりました。4年前に大阪医大に赴任してからも、理事の一人として、微力ながら尽力させていただく機会を与えられましたが、この度皆様方のご信任をいただき、引き続き理事を務めさせていただくことになりました。誠にありがとうございました。

日本の総合診療の発展は、ここからの10年がいよいよ正念場です。来年5月には京都でWONCA Asia Pacific region conference 2019も開催されます。私は今後も皆様方と共に、ここ関西の地から、総合診療の新たな大きな波を、全国に向けて発信し続ける所存です。決して平坦な道ではないと思いますが、みんなで一緒に頑張っていきましょう！どうぞよろしくお願い致します。

【ご挨拶】 新理事就任

石丸 裕康 (天理よろづ相談所病院)

このたび近畿ブロックより理事選出いただきました。奈良県の天理よろづ相談所病院で病院総合医として臨床・教育に従事しております。平成4年卒業後、天理病院に勤務し、内科レジデント修了後、総合診療教育部の医員として採用され今日に至っています。診療領域はいわゆる総合内科なのですが、複雑なケースの診療で診断・治療にいきづまることを多々経験するなかで、プライマリ・ケアや家庭医療の領域の知見が役に立つということに気づかされ、また3学会が合同したこともあり、本学会で活動させていただく機会を得るようになりました。学会活動では、近畿ブロック支部幹



事として運営にかかわるとともに、病院総合医委員会副委員長、広報委員会・和文誌編集委員会の一員として努めて参りました。活動を通じ、今後の医療には、質の高いプライマリ・ケアの確立はもちろん、病院においてもプライマリ・ケアや総合診療の価値を深く理解し、協働できる体制の構築が重要と考えております。「病院総合医」をジェネラリストのキャリアのひとつとして確立する活動を中心として、この領域の発展に貢献したいと考えております。また、諸先輩の築いてこられた近畿ブロックの活動を益々発展させていけるよう微力ではありますが尽力する所存です。宜しくお願い申し上げます。

[ご挨拶] 理事就任

朝倉 健太郎 (健生会 大福診療所/奈良県桜井市)



近畿ブロック理事に選出いただきました。どうぞよろしくお願いいたします。さて、総合診療を取り巻く情勢は少しずつ変わりつつありますが、元来、私たちが目指してきた理想にはまだまだ距離があるように感じております。現場で直面する多くの医療問題をどのように解決していくか、新専門医制度の中で名実ともに質の高い総合診療医育成をどう担っていくか、この領域に関わるより多くの人たちの力を総動員させる必要があることを痛切に感じております。ブロック内外のつながりをより強固にしていくこと、専門研修プログラムをより魅力的なものにしていくことを、近畿ブロックにおける喫緊の課題として取り組みたいと思います。また、2019年にはJPCA 学術

大会に併せた WONCA APR 2019 が京都にて開催されます。Asia-Pacific Region を通して世界の家庭医療のスタンダードを学びつつ、日本の持つ独自性を示していくことができればどれほど素晴らしいことでしょうか。現場の第一線で活躍する総合診療医が “Think globally, Act locally” のもとつながり合えるプラットフォーム構築について、その一躍を担うことができればと思います。大きな責任を感じつつ、プライマリ・ケアの発展、医学教育、学会活動の発展のため頑張っていきたいと思っております。是非、近畿より大きな動きを発信していきましょう！

[支部からのご連絡] ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

1) 府県支部の所属について

学会会員の都府県(支部)の所属は、原則「勤務先」の所在地となっており、ブロック支部事務局に申し出ることにより、移動(又は重複)が可能です。支部からの連絡が確実に届くようにするため、差し支えがなければ、連絡先を「勤務先」にする(変更には学会への届出が必要です)ことをお勧めします。

2) 地域支部・グループ研究活動に対する補助について(規定)

3) 「専門医・認定医/認定薬剤師 単位申請」及び「ブロック支部補助」申請の手順について

単位申請は、ブロック支部幹事会での承認の後、学会本部の認定委員会での審査という2段階の手続きとなります(ブロック支部からの補助については、ブロック支部幹事会の承認のみで決まります)。

学会の事務局体制の変更により、手順の一部を改訂しました。

4) 府県支部の連絡先について

→詳細は、上記ホームページをご参照願います。